

【講演会で特に印象に残ったお話】 いっぱいで書ききれません。

■ 牛は飼ってはダメ 移動したらダメ …と畜するしかなかった。世の中どうなってんだ！！



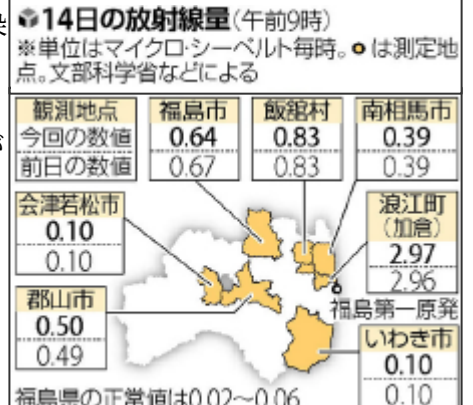
牛との別れ 引っ張ってるのは長男、牛のお尻を押しているのは次男、横にいるのは妻です

牛乳を毎日搾っては捨て、搾っては捨て、してたんです。飯館村は計画的避難区域になったから牛は飼ってはダメだといわれた。だから牛乳の集荷はしませんでした。だから捨てるしかなかった。そして牛は移動したらダメ 人間は避難しろって言われた…酪農をやめるしかなかった。牛を移動してはダメということに對し「どうする！」って福島県にやった。そして県から飯館村の牛2頭をと畜してください、その肉から放射性物質が検出されなければ、

飯館村の親牛全部と畜してもいい、検出されれば牛を置いて避難するよう言われた。検査するしかなかった。その肉からは放射性物質は検出されませんでした。ということはと畜するしかなかった。全ての牛の別れに立ち会った。世の中どうなってんだ、そういう思いだった。(※と畜…食肉用に家畜を殺すこと)

■ 飯館村のモニタリングポスト（放射線測定装置）の数値は、低く表示されている

モニタリングポストは自衛隊と大成建設がやってきて徹底的な除染をし、土を入れ替え、鉄板を敷いて強制的に放射線を下げられている。ある日全国に発信されていた数値は0.9マイクロシーベルト。ところがそこから10m離れたら2.4マイクロシーベルト。さらに10m離れると3マイクロシーベルト。モニタリングポストの線量だけが下げられ、それがあたかも飯館村全体の線量のように報じられている。飯館村の人はみんな困ってます。飯館村なんでそんなに騒いでるの？飯館村はもう十分はもう帰れるんじゃないの？と思われるのでは。こんな無理なことをしてきました。私が月に1回一軒一軒全部線量を調べています。線量が比較的高い地区のモニタリングポストは4.6マイクロ表示だったが、30m離れと9マイクロシーベルトもあった。こんなおかしい、絶対ダメだ！って言ってきて、ようやくその声が実って、一ヶ月前、文科省が10%だけ低く出るようになっていたと認めました。まだまだ私はやるつもりだ。子どもたちに健康被害が出てきた時に、その低いデータが使われる。実際はその倍あるんです。だから今から声をあげないとダメだ、そういう思いでやってます。0.83マイクロは、約年7ミリの被ばく線量。福島県以外は、年1ミリが被ばく許容限度とされている)



読売新聞に掲載された線量



除染し、土を入れ替え、鉄板を敷かれたモニタリングポスト。30m離れると数値は倍。

■ 人が住んでいるなんて信じられない」京大原子炉実験所助教 今中哲二氏)

京大原子炉実験所の今中助教のグループは、飯館村の線量を2日間にわたって調べ「こんな線量の高いところに人が住んでいるなんて信じられない」と言った。そのデータを村長に渡し「村長さん、危ないですよ、すぐに避難をするべきだ」と進言した。ところが村長は「このデータ、公表しないでください。公表してもらっては困る」そして涙を流しながら「この線量を浴びながら生活できませんか？」と迫った。今中氏は「それは無理だ、出来ない」と言ったという。

■ 避難指定の前日も御用学者は 放射能大丈夫」と安全説法 新聞紙上で今もやってる

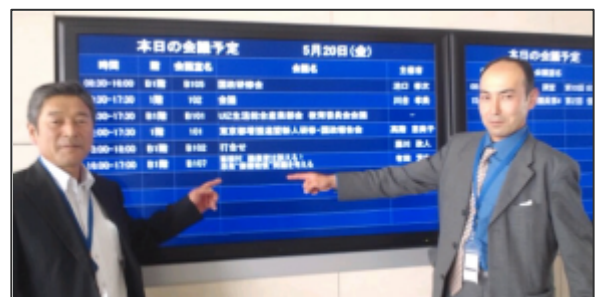
その後、御用学者が来て、外で遊んで大丈夫、マスクはいらない」と安全説法を行った。避難区域に指定される前日にも近大の杉浦教授が放射能は怖くないと言った。なんでそういう学者は飯館村は大丈夫だと避難区域と指定した国に対して物申さないんだと思う。御用学者はしばらく姿を消したが、福島医科大学副学長山下俊一、福島県放射線リスクアドバイザー高村昇という肩書きをつけてまた現れた。彼らは未だに新聞紙上で安全説法やってます。なさない限りです。

■ 放射能のリスクよりもタバコの発ガンリスクの方が大きい…、冗談じゃねえっ！！

村長は放射能のリスクよりも避難するリスクの方が大きいとメディアや本でハッキリ言ってる。またタバコによるガン発生リスクよりも、はるかに放射能の方がリスクが小さいとも言ってる。私は「冗談じゃねえ、ふざけるんでねえ、タバコは好きで吸ってる。命を懸けてすってるんだぞ。放射能はゼロ歳から100歳まで全てにかかるって、それを同じに考えるなんて冗談じゃねえ！」そういう思いをまともに村長に対して言った。村長は放射能を怖がっていないんだ。

■ 子ども達のことが心配 甲状腺に異常があっても二次検査はしない。人手不足だから！？

11月2日の新聞に書いてあった。これは忘れない。福島県でやってる子どもたちの健康調査、この2年間で425人の子どもの甲状腺に異常が見つかったけど、二次検査をしないっていうんです。理由は人手がたりないからって言うんだ。とんでもねえ。



飯館村の酪農家の訴えを国に申し入れ！

長谷川さんのメッセージ

みんなで声をあげてかなくちゃなんない

「こんな思いは福島県だけでたくさんだ」「風化させない」「差別を起こさせない社会づくり」

参加者の感想



3. 11前の飯舘村

上写真は、ワラビ園。年間約千人が訪れていた。右は「ばんがり」、大きな「ししおどし」と思ってください。屋根の中に石臼があり玄米を入れておくと夕方には白米になる。



写真は長谷川さんの
のスライドから



3. 11の地震で地割れした長谷川さんの畑

長谷川さんがリーダーとしてもすごいと思った。

他の地区はどうなのか聞いてみたかった。長谷川さんの地区に住みたいと思った。

地区の区長はいろいろいると思う。長谷川さんは、事故が起こってピピッとわかる人。JCO 臨界事故の時、牛乳とほうれん草から放射能が検出されて出荷停止になったことが頭から離れなかったり、宮崎の牛や豚の「口蹄疫」の情報もつかんでいるし、今回の事故でもジャーナリストが長谷川さんのところに集まってくるし、事故前から普段から、いろいろそういう人だったんだと思う

長谷川さんが村長や県や国に対して声をあげていることで嫌がらせを受けることはないと言っていた。声をあげても後ろには飯舘村のみんなが私の後ろにいるからだと言っていた。すごい人だと思う。



長谷川さんたちが暮らしている仮設住宅



ビニールハウスの天井を突き破る雑草

＊仮設を選んだ5つの条件

①大きな病院が近い ②スーパーが近い ③仮設の周りに住宅が近い ④木造 ⑤ふるさとの飯舘村に近い
この仮設を見た足で役場に行って、「ここに決めた!!」
前田地区まとめるぞ!ここに集まれっ!!」
そして54戸のうち21戸がこの仮設で暮らしている。



原発から20km圏内の牛舎（ミイラ化した牛）
死んだ牛を豚が食ってる。これは地球の裏側の
出来事ではない、同じこの日本で起きていることな
んです。この事実をみんなに知ってもらいたい」

牛が連れて行かれる時
の、牛の鳴き声が頭から離
れない。牛は涙も流すし、
よく状況をわかっている。



この建物は飯舘村の役場。白い防護服を着てい
るのは自衛隊。このすぐ近くに「いちばん館前」の
モニタリングポストがある。こうしてそこだけを徹底
的に除染をして線量を下げられたんですね。



長谷川さんが、毎月自分で線量を測っていること
がすごいと思った。それが公式の数値として認め
られるような対策も必要だと思った。今後、健康
被害が出てきた時に放射線との因果関係が否定
されることは水俣の歴史をみてもわかるから、そ
うならないようにしないとと思った。



除染物質の仮置き場 飯舘村)

飯舘村の今～除染～】

今、除染のモデル事業をやってます。400m四方で、6億円。
そして来年4月から11月まで4300人で徹底的な除染をするって言ってます。

飯舘村の面積は230km²。75%は山です。
山の除染はやらないって言ってるんです。

長谷川さんの家はすぐ後ろに山があるから 除染しても戻る、と言われた。
覚悟はしてたけど、やっぱり、なさけねえ



飯舘村の桜並木 放射能は感じられない
村長は放射能を怖がっていない

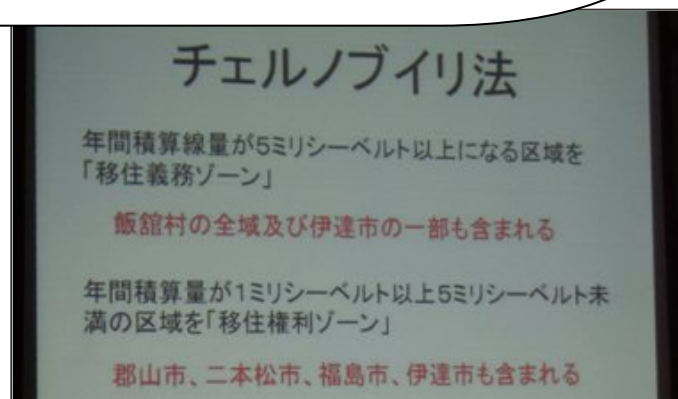


モデル事業で、白い防護服を着た大成建設の
スタッフが林の中を除染しているところ

印象に残ったのは「ふるさとに帰りたい強い思いもあるけど、チェルノブイリのことが頭から離れない。チェルノブイリでは年5ミリシーベルト以上の被ばく線量が移住の義務。年1ミリシーベルト以上は移住の権利区域。ところが福島県では避難の基準が被ばく20ミリシーベルト。福島はチェルノブイリの4分の1なのか」です。

チェルノブイリ原発事故ではそれでも健康被害が出ている。ウクライナ政府が去年報告書を出している。そこには事故後生まれた汚染地域の子78%が慢性疾患を持っている等、書かれている。現地の医師はチェルノブイリ原発事故の放射線の影響も一因だと報告しているが、IAEAは母数が少ないから優位差は認められないと否定している。実際に起きている低線量被ばくの実態を知らなければと思った。放射能を怖がっていない飯舘村の村長にも知らせたいと思った。

子どもたちのことが心配、検査
したい人はどこでもできたら
いいのに。それが普通じゃない
の。二次検査をしない理由が
「人手が足りないから」って意
味がわからない。



福島はチェルノブイリの4分の1の命なのか
福島は年20ミリの被曝線量で避難の権利、チェルノブイリは年5ミリで移住の義務、年1ミリで移住の権利)

【除染一辺倒ではなく、村を離れる分村型という2本のルールを考えるべき】

私は村長と友達なんです。子や孫は帰さないけど私だってふるさとに戻りたいから国が除染するって言うてるんだから除染は大賛成！国策でたってきた原発なんだから国の責任において除染はやれ！って言うてる。

一方でチェルノブイリのことが頭を離れない。チェルノブイリでも事故の後、5年除染をやった。ところがいくらやっても元にもどる。お金がなくなる。そして旧ソ連は崩壊する。結局その住民は移住。

同じことになんねばいいな。
だから除染と村を離れる分村型という2本のルールで考えるべきって村長に言うてる。

アンケートに寄せられた感想（一部紹介）

松原にはと場があって、「牛は鳴き声以外ムダにしない」と、いただく命にいっぱい感謝しています。

20km 圏内に住む牛舎の牛・豚の場面が忘れられません。映像や TV でも福島に関心を持っていますが、当事者の話をうかがうのは初めてです。やはり当事者からしか聞けない声をうかがいました。しっかり受け留めたいです。「までい」の村の底力、うかがいました。

モニタリングポスト（常設の放射線計測器）の数字の嘘、健康を守らなければならない子どもたちが危険にさらされている現状、ショッキングというより、何もしてこなかった自分を恥じています。できること（友人に伝える）ことからやっていきます。

中学生への放射能安全教育の話聞いて、がくぜんとしました。正しい情報を発信していくことの大切さを痛感しました。

事故がおきた混乱している時に、一貫して放射能から守るために尽力されてきた長谷川さんに敬服の思いです。長谷川さんが最後に言われた「風化させない」「差別させない社会づくり」この言葉を私たちは、真摯にうけとめていかなければなりません。チェルノブイリで今起きていることをしっかりうけとめ、学びながら、長谷川さんが今日講演していただいた「福島で起きていること」現実を見据えて全国で見守り、行政としてデータ保存、健康管理含めて補償していかなければと強く感じました。

市井の一市民の一人が村を思い「ふるさと」を思い、友人を家族を思い、走り回って考え続けていられるお姿に胸が打たれました。政治は、政治家は何をしているのか！腹立たしい限りです。私は今日のことも福島のこととも考え思い続けます！！約束します。ありがとうございました。

衝撃的な講演でした。絶対に風化させてはならないこと、核は全てのものを分裂させるという訴えが強烈でした。

原発事故被害の深刻さを実感しました。関西においても、大飯原発活断層問題があり、本当に生活を守るためにも原発を廃止しなければという思いでいっぱいです。

「なさけねえ」の言葉、本当にそう思います。なぜ村長があんなんになってしまったのか、国の対応、県の対応、マスコミ全てが「なさけない」私たちがこれから何を選ぶのか真剣に考えさせられました。...

阪神大震災と東日本大震災の比較の最後の言葉が最も重くズシリとききました。「原発事故、放射能の恐ろしさは全てのものをバラバラにしてしまうことだ」長谷川さんの家族や村、子どもや高齢者、農民や酪農家がバラバラにされることへの怒りが行動の原動力であり、村への無心の愛を講演を通じて強く感じました。

自然と共存した理想の農業をめざしてがんばってきた飯舘村の人々が、原発事故で一瞬のうちに家族も家族同然の家畜たちとバラバラにされてきた。その苦しみと怒りがひしひしと伝わってきました。この怒りと悲しみをうけとめ、一緒にがんばっていきたいと思います。